

# 新 年 の ご 挨拶



理事長  
上田 清 (大和郡山市長)

あけましておめでとうございませす

組合員の皆さまにおかれましては、つつがなく新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨春秋の政権交代に伴い、日本の社会保障制度は「大転換期」ともいえる状況に直面しています。国の政策がどう変わっていくのか、また、それが地域住民と組合員の皆さまにどのような影響を及ぼすのか、私たちは短期・長期の二つの視点から慎重に見守っていかなければなりません。

たとえば、新政権は「マニフェスト」で後期高齢者医療制度の廃止を約束しています。この制度は、現役世代が長寿（後期高齢者）医療制度の財源の約4割を支援するとともに、前期高齢者医療制度に財政調整金を支払うことになっていたため、当共済組合の財政に深刻な影響をあたえました。それがどのようなスケジュールでどう改革されるのかは、組合財政の今後に大きくかわっていくことでしょう。

また年金については、長期的展望の下で各種年金の二元化と税負担のあり方が議論されることになっていきます。これも組合員と年金受給者の皆さまの生活に直結する問題です。さらに地方分権の推進と財源移譲など、将来の職場のあり方や雇用情勢、共済組合の運営に大きな影響を及ぼす課題が山積しています。

「大転換期」は多事多難の時代でもあります。そのような時期に理事長を務めるものとして、より一層の努力を心に誓っております。格別のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



職員側代表理事  
辻本 恵則 (元東吉野村)

新年おめでとうございませす

皆さまにおかれましては、健やかなる新年を迎えられたことと存じます。

昨年も私たちを取り巻く職場の情勢は非常に厳しいものでした。財政難を理由とする人員削減や賃金据え置きなど、組合員の皆さまは苦渋の選択を迫られたことと思います。共済組合も例外ではありません。歳入状況が深刻であるのもちろんです。前期および後期高齢者医療制度への財政支援や財政調整金支払いによって極めて困難な運営を強いられました。

そうした状況の中で昨秋、政権が交代し、医療や年金などに大きな変化が生じようとしています。新政権は「マニフェスト」でさまざまな項目を掲げましたが、なかでも後期高齢者医療制度の廃止、長期的な視点での年金の一元化、地方分権の推進と財源移譲などの公約は、皆さまの生活に直接の影響を及ぼすと同時に、組合のあり方や財政にも大きくかわってくるものです。

しかし、このような政策がプラスの効果をもたらすとしても、それまでにはかなりの時間がかかることでしょう。したがって、今後とも財政収支のバランスがとれるよう、一層の内部努力が求められています。より有効な予算計画の策定と実行のために、更なる努力を心がけていく所存です。

当組合は、従来から健診・保健指導に力を入れてまいりました。厳しい状況の中で共済制度を維持していくには、皆さまのご助力が不可欠です。「生活習慣病は自らが予防・克服する」を合い言葉に、健康づくりを日頃の習慣にさせていただくようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

